五常

編集発行
コミュニティ
協議会
広報委員会

人　口
８，００２人
世帯数
３，３２０世帯
令和５年２月現在

まさかの時に備えよう！
第20回 防災フェスティバル

2月26日(日)、実に4年ぶりとなる防災フェスティバルが開催されました。

枚方市消防団・川越(かわごし)分団の方々による緊急走行と放水のデモンストレーションを皮切りに、参加者は3班に分かれ、代わる代わる3つの訓練を行いました。

天まで届く勢い

○消火訓練

①火災を発見
②「火事だーッ！誰か来てーッ！」と大声で人を呼ぶ
③集まった人に、消火器の調達（火勢が強いと、ひとつでは足りないため）や、119番通報を依頼
④消火器を持って、火に接近

上手に消せるかな？

⑤ピンを抜く
⑥ホースの筒先を持つ
⑦レバーを握り（消火剤噴射）、火の根元に向かってホウキで掃くように噴射

○人命救助

①倒れている人を発見
②声をかけて反応を確認
③大声で助けを呼び、119番通報とAEDを手配
④呼吸をしていない、またはしゃくりあげるような途切れがちの呼吸の場合、すぐに胸骨圧迫（心臓マッサージ）

素早く、休まず
（可能なら交代で）

⑤胸骨圧迫は、両手の付け根を重ね約5cm沈むように100～120回／分のペースで続ける
⑥AEDが届いたらフタを開け、機械のアナウンスに従う（電極パッドを胸と脇腹に貼るなど）
⑦電気ショック実行時は、傷病者から離れる（感電の危険あり）

○応急搬送【簡易担架作成】

①毛布、丈夫な棒（洗濯ポールや竹竿など）2本を用意
②毛布の1/3～1/2に1本目を置く
③棒の位置で二つに折る
④端から約5cmの位置に2本目を置き、2枚まとめて折り返す
⑤頭部が毛布に収まるように傷病者を乗せる
⑥前後の搬送者が前方を向き、タイミングを合わせて持ち上げる

毛布が重なる場所が
すべり止め（斜線部）

＊緊急時、119番通報などを、周囲の人に依頼する場合は、「誰かお願い」ではなく、「あなたは、これを」と、個別に指示を出すことが大切だそうです。「誰か」では誰も動いてくれません。

終盤には、激励に見えた伏見枚方市長が救急搬送される（笑顔で）ハプニングもありつつ、午前中には無事全行程を終了しました。

ご協力いただいた消防団、実行委員そして参加者の皆さま、小雪の舞う寒い中お疲れさまでした。これからも校区全体で、防災意識・防災知識を高めて行きましょう！

大変です！伏見市長が！

(第3面　あべのタスカル)

祈念！無病息災

お正月の恒例行事となっているとんど祭り。今年は１月８日(日)に行われました。

当日は朝早くから、櫓(やぐら)やテントの組み立てなどの、会場設営作業が始まります。それまでの藁の調達、竹の伐採、そしてお土産品の手配まで含めれば、仕込みには老舗割烹(しにせかっぽう)並みの手間と時間がかかっています。

櫓を組み始めた頃はどんよりした曇り空で、雨も心配されましたが、点火時刻の11時が近づくにつれ晴れ間が広がったのは幸いでした。

お飾りと悪戦苦闘（納所風景）

燃やすものを受け付ける納所では、正月飾りの解体に四苦八苦。最近のお飾りは、太い針金ががっちり食い込んでいて、簡単には外れません。時に手元が狂って、「痛テテ」となることも。

でも、金属類が校庭に燃え残ると、子どもたちのケガにつながりかねないので、ここはおろそかにするわけにはいきません。皆さまも「痛テテ」とならない範囲で、金属類は外してお持ちください。

年男・年女の皆さん

点火の大役を担うのは、今年の年男・年女の皆さん。全員小学5年生ということでした。お父さん、お母さんにお尻を押されての登場だったようです。

火のついた長いトーチを、3人ずつで支え持つと、ゆっくり櫓に近づきます。そして点火。

いよいよ点火

今回は火の回りを良くするため、藁をあまり詰め過ぎないように配慮したせいか、あっという間に燃え落ちてしまいました。てっぺんの笹つき小枝に火が移らなかったのもちょっと残念。毎年、試行錯誤の連続です。

根強い人気、バルーンアート

一本の風船で動物の似姿などを表現するバルーンアートには、今年も長蛇の列ができました。魔法のような指さばきは、そばで見ていてもほれぼれするほどです。

ここでひと言つけ加えておくと、とんど祭りで燃やす藁は数年来、「交野おりひめ大学 酒づくりの会」の皆さまより寄付していただいています。酒米はふだん食卓に並ぶうるち米に較べ、稲穂の丈が高い＝藁が長いのが特徴です。

とんど祭りは元来小正月（1月15日）の行事であることから、来年はその前後に実施する案も出ています。引き続きご協力お願い申し上げます。

あべのタスカル？

コロナ禍の間、滞りがちだったコミュニティの活動にも、ようやく再開の兆しが見えてきました。

1月16日には、コミュニティ連絡協議会南部ブロック主催の日帰り研修会が催され、18名の役員が大阪市立阿倍野防災センターを見学しました。

枚方市コミュニティ連絡協議会は、東西南北4つのブロックから成り、五常校区は開成、山之上等の13校区と共に、南部ブロックに所属しているのです。

阿倍野防災センターは、体験型防災学習施設として、4年前にリニューアルオープンしたばかり。ご近所に聳え立つあべのハルカスに因んだ愛称「あべのタスカル」の方が、通りが良いかも知れません。

見事に再現された、がれき(瓦礫)の街

この日はみっちり1時間、災害の脅威を迫力の大画面で伝える映画に始まり、大地震の揺れを体感できる震度7体験、煙で視界の悪い中を避難する煙道体験、半壊家屋の建ち並ぶ街で余震の危険を学ぶ「がれきの街」などを体験しました。

こ、腰が…

体験コース(無料)は30分～2時間の中から選べます。館内には消防車をかたどった乗り物のほか、子どもたちも楽しめる趣向が満載ですので、一度ご家族で訪ねてみられてはいかがでしょう?

※事前に予約が必要です
【電話:06-6643-1031】

夜の雪

もはや旧聞と化しましたが、1月24日の夜から未明にかけて、かなりの降雪がありました。

翌朝は晴れたものの、路肩や下生えにはまだ白いものが残っており、マンホールや側溝の上はすべりやすい状態。足を取られて、ヒヤリとした方も多かったのではないでしょうか?

この日は終日にわたり列車の運休が続くなど、交通機関への影響も少なくありませんでした。

その二日後にも、今度は日中に雪が舞いました。1週間に二度も雪が降るのは、枚方では珍しいことです。

この冬は、十年に一度の寒波と言われ、その一因はラニーニャ現象にあったようです。

ラニーニャとは、南米沖赤道付近の海面温度が低くなる現象です。なぜ低くなるかといえば、太陽に温められた海水が、ふだんよりも強い貿易風(東風)によって太平洋西岸のインドネシア近海まで押し流されるため。

海面の温度が上がると雲の湧出が盛んになります。冬になると北から下りて来るシベリア寒気団が、その雲の影響で日本上空に居座り、結果として厳しい寒さが続く傾向にあるのです。

もちろん例外もあるのですが、今年に限っては残念ながら傾向どおりだったようですね。

共に、2023年1月24日撮影

見守り隊に、ご協力を！

本紙前号でもお知らせした通り、五常っ子見守り隊の活動が、参加者の減少により存続の危機に瀕しています。

見守り隊は平成18（2006）年、青少年育成指導員や民生児童委員に加え、各自治会の防犯委員、交通指導員が中心となって結成されました。

D地点
（馬淵教室前）

ところが現状、自治会からの参加は、ほとんど見られません。

少なくとも防犯委員、交通指導員については任期中、可能な限り見守り活動に参加するなど、各自治会としても積極的にご協力いただけないでしょうか？そうすれば一人当りの見守り回数も、月1回程度に抑えられます。

もしもご不明点等ございましたら、左記までお問合せください。

コミュニティ協議会：
info@gojyo-community.com

役員名簿提出のお願い

2月19日の合同会議の際、各自治会の責任者の方に来期の役員名簿の提出をお願いしました。

おそらくメール送信を予定されている方も多いと思いますので、当協議会のホームページ（枠外にURL）・新着情報に、WORD形式のフォームを用意しました。タイトルまたはサムネイルのクリックで、ダウンロード可能です。

こちらのフォームに直接ご記入の上、文書に示した宛先までお送りください。

サムネイルは1頁目だけをイメージ変換したものですが、ダウンロードされる文書は紙でお配りした内容と同じです。

なお、メールでお送りいただく際は、個人情報保護の観点から、
①文書をパスワード付き圧縮
②パスワードは別便にて送付
を、お願いいたします。

お預かりした情報は、当コミュニティの活動のみに使用し、第三者に提供することはありません。

サクラ咲く

今年も4月1日に煙突山さくらまつりが開かれます。今のところ開花は3月24日、満開は4月1日と予想されていますので、お花見には絶好のタイミングではないでしょうか？

ただし煙突山（妙見山配水池）は、市民のライフラインを握る重要な施設ですので、衛生面への配慮から、構内で飲食はできません。ご休憩の際は、隣接の五常会館をお使いください。

今回も枚方市人権政策室により、戦時にさかのぼる煙突山の歴史解説が実施されます。

あれから１年（2022年4月2日撮影）

第14回「煙突山さくらまつり」

2023年4月1日（土）　11:00～15:00
会場　：　煙突山（妙見山配水池）
共催　：　枚方市・人権政策室

※場内での、喫煙・飲食はできません
※ペット同伴は不可とします
※入場の際は、マスク着用をお願いします
※ご休憩は、五常会館[隣接]へ
（ゴミは必ずお持ち帰りください）
※駐車場はありません

編集後記

5年前の大阪北部地震の際は、余震のたびに動悸が止まらなかったものですが、「喉元過ぎれば」ですね。両手でガッチリ手すりをつかんでいても、危うく転倒しそうになると聞く、あべのタスカルの震度7体験にでもチャレンジして、もういちどあの恐怖を肝に銘じなければ。

（広報委員会）